

Kacotam

Annual Report

Kacotam

2014

# Kacotamの取り組み

## What- 何の問題に取り組むのか

子どもたちのなかには、経済的理由や家庭環境等自分ではどうしようもない理由により、様々な学びの機会が失われている子がいます。経済的困難さにより高校、大学に進学できない、進路選択の余地がない、部活や習い事をやりたいのに、自分だけあきらめざるを得ないという状況にあります。また、様々な問題を抱えて余裕がなくなってしまった保護者の子どもへの教育に対する無関心さや虐待により、家庭での学びが失われ、基礎学力だけでなく、他者に信頼感を得ることや規則正しい生活習慣を身につけると、体験学習等の機会が失われてしまいます。

## Why- なぜ解決する必要があるのか

子どもたちが学びの機会を失うことで、将来の様々な困難さが醸成されてしまいます。中卒での就職は困難であり、たとえ就職できたとしても学歴によって就ける職業が限られ、非正規雇用が多く、不安定な生活を送る可能性が高くなります。また、子どもたちの「やりたい」、「学びたい」が自分ではどうしようもない理由によって、「我慢」や「あきらめ」に変えられてしまい、そういった経験の積み重ねが「どうせやっても」という最初からあきらめてしまうことにつながり、自己を肯定することができなくなってしまいます。その結果、意欲の低下や不登校、社会とのつながりさえもなくなってしまいます。

## How- どのように解決するのか

- ・様々な学習プログラムの提供
- ・自分のありのままを受けとめてくれるちょっと年上の大人との出会い

国・数・理・社・英の基礎科目の学びを中心にサポートをします。また様々な分野のことについて、メンバーが話をするKacotime、料理教室、英会話教室を実施しています。一日料理長のような子どもの「やりたい」を実現するサポートもしています。メンバーは子どもたちが良い状況、悪い状況に限らず、「今」を受けとめ、それを日々積み重ねていくことで、子ども自身がありのままの自分を受けとめられるようにつなげていきます。

## Who- 誰にサービスを提供するのか

児童養護施設やファミリーホーム等の社会的養護下の子どもたちやひとり親家庭、生活保護世帯等の経済的困窮家庭の子どもたち、学校かつその他教育機関に行くことができない子ども・若者

## 2014年度の振り返り

当年度もご支援していただき、ありがとうございます。おかげさまで当年度も活動を継続することができました。高校受験生6人が無事志望する高校に合格し、ちょうどそのころKacotamは、任意団体からNPO法人となり、団体として新たなスタートをきりました。

何がきっかけで突然関われなくなってしまうか分からない。そのような状況のなかで私たちは活動をしています。そのため、学ボラ事業、スタサポ事業、リラーニング事業それぞれ継続して活動できたことが一番大きいと感じています。また、私たちの活動は子どもたち、若者と継続的に関わることが最も重要になります。

その子(若者)の依頼者側の支援が終了して、私たちの支援も終了したり、子どもたちがカコタムに行きたいと思っても、保護者に余裕がなくなってしまうたり、保護者の考えがカコタムの考えと違っているからもう行かせないとなってしまうと、一瞬にして関わりがなくなってしまうことがあります。多くの子ども・若者とは毎回会っているので、忘れがちになりますが、毎回そんな危うさと隣り合わせです。メンバーも一緒に毎回同じメンバーでできるとも限らないし、活動以外ではそれぞれの生活があります。そのようななかで、活動が継続できたのはやはり大きいと感じています。

### 学習支援企画チームの立上げ

今まで運営メンバー(以下コアメンバー)が中心となり、スタサポ事業で当日のように運営していくのかということをお話し合っ、様々な施策を行っていました。ただ、それでは、実際に活動するメンバーの意見反映が不十分であること、内容に広がりがないことをうけ、当日参加するボランティア(カコタムメンバー略してカコメン)を含めた学習支援企画チームを立ち上げました。具体的な活動内容は、日々の活動の改善、カコタム研修企画・実施、データベースの構築です。

### 学ボラ標準化プロジェクトチーム立上げ

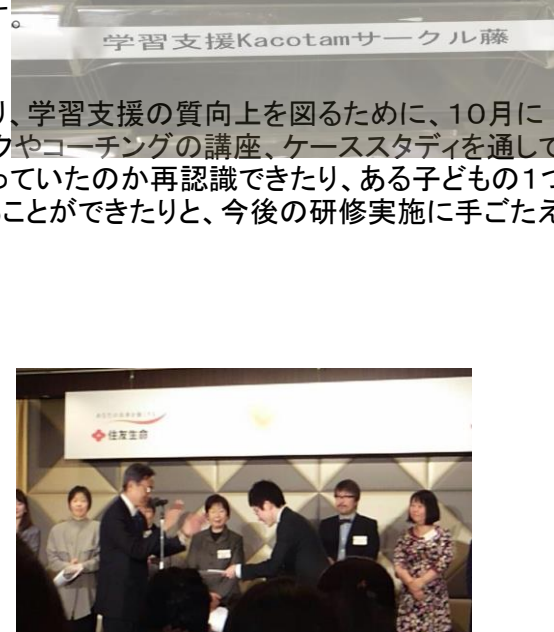
学ボラ事業において、カコメンが単独で活動することが多いため、そのメンバーの能力によって、日々の活動が左右されてしまうという問題がありました。メンバーそれぞれの良さを発揮するとともに最低限の質を担保するためには学習支援の標準化を進める必要があると考え、学ボラ標準化プロジェクトチームを立ち上げました。具体的な活動内容としては、学習支援の方針を決めるために、子どもの現状を把握することが最も重要になるため、学年別科目別単元別にそれぞれの理解度を測るテストの作成・理解度の見える化を図るツール作成に着手しています。

### Kacotamサークル藤の立上げ

コアメンバーの竹内が藤女子大学でKacotamサークル藤を立ち上げました。継続的にメンバーを集めること、活動に参加するハードルを下げるために立ち上げましたが、今後は、ある程度Kacotam本体から独立した組織として運営し、独自企画も実施できることを期待しています。

### カコタム研修の実施

メンバー間のつながりを深めること、メンバー自身の振り返り、学習支援の質向上を図るために、10月に初めて実施しました。2日間に分けて実施し、グループワークやコーチングの講座、ケーススタディを通して学びました。この研修を通して、なぜ今までこのツールを使っていたのか再認識できたり、ある子どもの1つの言動からどう状況をとらえるのかを様々な視点から考えることができたりと、今後の研修実施に手ごたえを感じるものとなりました。



カコタム研修(1日目参加者)

住友生命未来を強くする子育てプロジェクト受賞式

## 年間活動報告

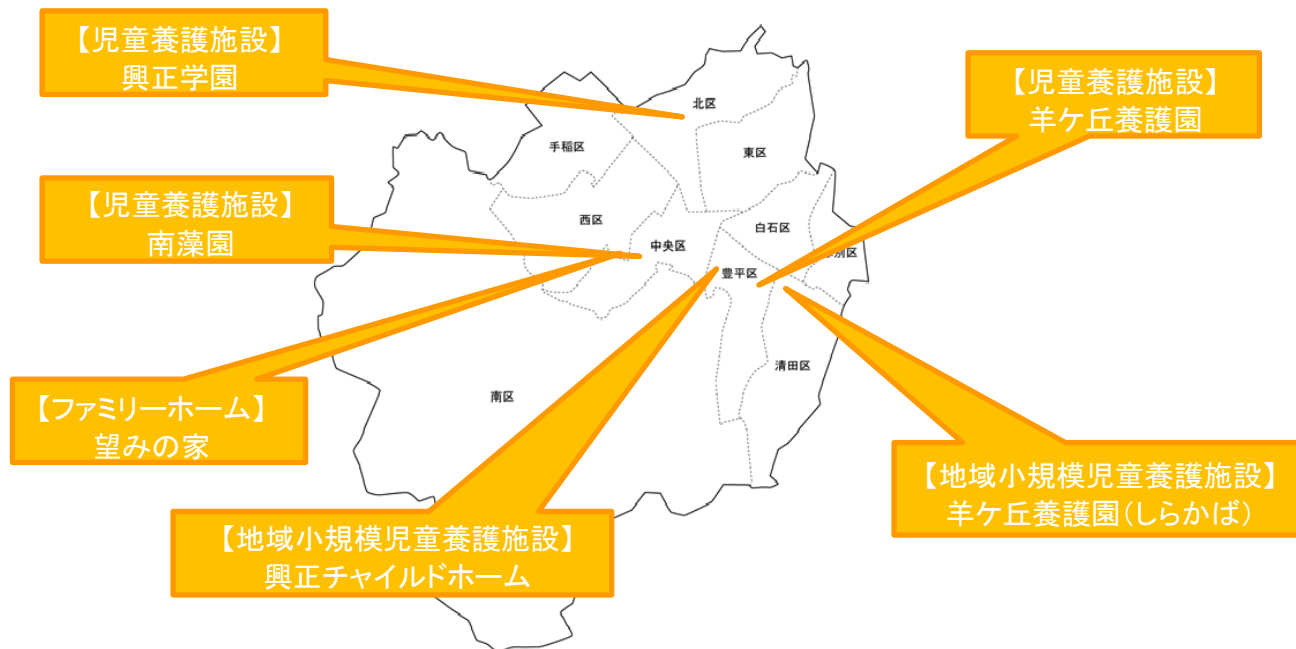
---

- 2月      ここわらねっと主催のイベントにて活動報告発表  
住友生命の未来を強くする子育てプロジェクト未来賞受賞式参加  
学習支援企画チーム立上げ  
へるすたでい食事の提供開始
- 3月      進学進級のお祝い会開催
- 4月      第4回カコタイム テーマ:海の上の生活  
北海道大学 遠友塾にて児童養護施設の子どもたちの現状と活動報告発表
- 5月      広報さっぽろ北区版 へるすたでいの学習支援風景写真掲載
- 6月      北海道医療大学 看護福祉学部にて子どもたちの現状と活動報告発表
- 8月      エルプラザにて夏期講習(2日間)実施  
Kacotamサークル藤設立  
日本経済新聞(全国版)に学ボラ事業掲載  
スタサポ事業の子ども1人が料理長となったパーティーをへるすたでいにて実施  
第5回カコタイム テーマ:勉強方法
- 9月      公益財団法人日本教員公務員弘済会北海道支部の奨励金授与式参加  
南藻園の学園祭参加  
興正学園の学園祭参加  
学ボラ標準化プロジェクトチーム立上げ
- 10月     初のカコタム研修実施(2日間)
- 11月     こども學舎の家庭支援の授業にて、子どもの現状と活動報告発表  
北のチカラ！子どもの貧困対策どさんこ緊急決起集会のリレートークに参加
- 12月     クリスマス会開催  
ホームページリニューアル

# 児童福祉施設における子どもの学習支援事業(学ボラ事業)

## 2014年度概要

学ボラ事業では、前年度同様に興正学園さん、羊ヶ丘養護園さん、南藻園さん、望みの家さんで活動を継続しました。現在、「より家庭に近い環境で子どもたちを育てていく」という国の方針のもと、それぞれの施設において地域小規模児童養護施設が設立され始めています。興正学園さんでは前年度と同様大きい施設1施設、小さい施設1施設にそれぞれで活動をしました。羊ヶ丘養護園さんでは今まで大きい施設のみでしたが、小さい施設にも向うようになりました。



各児童福祉施設の担当人数

	興正学園	羊ヶ丘養護園	南藻園	望みの家	計
小学生	0	4	0	2	6
中学生	3	4	10	0	17
計	3	8	10	2	23

## エピソード

高橋自身3つの施設で活動をしていました。ただ担当していた子の一人が、2014年4月～9月までで関わりを終了しました。その子は中学3年生で、受験対策で早急に対応してほしいということで、私が担当することになりました。いつも私が来る時間に玄関近くで待ってむかえてくれていました。学習面は、関わり始めて最初のテストで成績が伸び、学習意欲も高まり順調に進んでいました。夏休みに一時帰宅し、家庭から戻ってきた最初の日に状況は一変し、いつも玄関で待っているその子の姿がありませんでした。15分後によく来たと思ったら、とてもイライラして最初に発したのが「もうあきらめた」という言葉でした。それから話をしていくなかで、中学を卒業したら、家庭に戻り、それによって普通科高校に行くことができなくなってしまったということが分かりました。施設にいる場合、私立高校に行くことが可能なため、私立の単願で受験することを想定していました。ただ家庭に戻ることが決定し、経済的困難さ、親の了承を得ることができないことにより、公立・私立高校、定時制高校に行く選択肢が一瞬にして失われ、勉強する目的もなくなってしまい、その結果、学校にも行かなくなってしまいました。そして私の関わりも終了となりました。

もし給付型奨学金等の経済的支援が充実していたなら、もし保護者が子どもの教育を考えるだけの余裕があれば、余裕を持てるだけの支援がなされていれば、その子の「毎日高校に行って、部活をしたい」という一般家庭では当たり前とされていることを実現できたのかもしれない。今の私たちの力では、子どもたちが抱える問題を解決することができないということを痛感させられました。

# 各地域拠点における子どもの学習支援事業(スタサポ事業)

## 2014年度概要

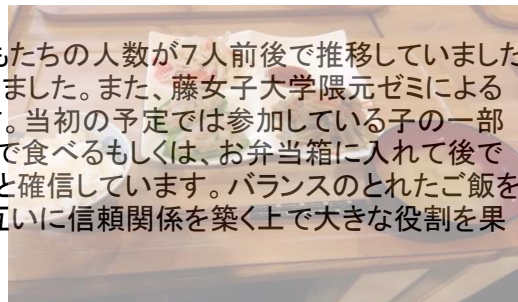
スタサポ事業では、前年度同様に、エルプラザ拠点、こども學舎拠点、へるすたでい拠点、ねっこぼっこ拠点で活動を継続しました。参加総数は前年の2倍となりました。ご家庭によっては複数の拠点に参加することも多くなり、信頼していただいている証拠ととらえています。エルプラザ拠点、こども學舎拠点では、人数が増えたことと、子ども人数が10人を超えると運営が困難になることから、しんぐるまざあずふおーらむ北海道さん、こども學舎さんのご協力もあり、二部屋借りて、実施することが可能となりました。

各拠点の子どもの参加総数

	エルプラザ	こども學舎	へるすたでい	ねっこぼっこのいえ	計
1月	32	5	22	4	63
2月	47	17	22	5	91
3月	52	24	22	3	101
4月	52	21	25	0	98
5月	44	22	38	12	116
6月	40	24	43	11	118
7月	40	21	44	10	115
8月	80	21	55	9	165
9月	53	28	35	6	122
10月	52	22	26	4	104
11月	58	23	31	5	117
12月	51	22	26	7	106
計	601	250	389	76	1,316

### へるすたでい食事提供開始

へるすたでい拠点は1月～4月ぐらいまでは前年同様に、子どもたちの人数が7人前後で推移していましたが、5月以降は急に人数が増加し、最大で18人となる日がありました。また、藤女子大学隈元ゼミによる食事の提供も開始したことが大きく影響していると考えられます。当初の予定では参加している子の一部が希望すると考えていましたが、参加している子全員がその場で食べるもしくは、お弁当箱に入れて後で食べるというかたちで食べています。食事提供のニーズがあると確信しています。バランスのとれたご飯と一緒に食べるというのは、普段とは異なる話が自然とでき、お互いに信頼関係を築く上で大きな役割を果たしています。



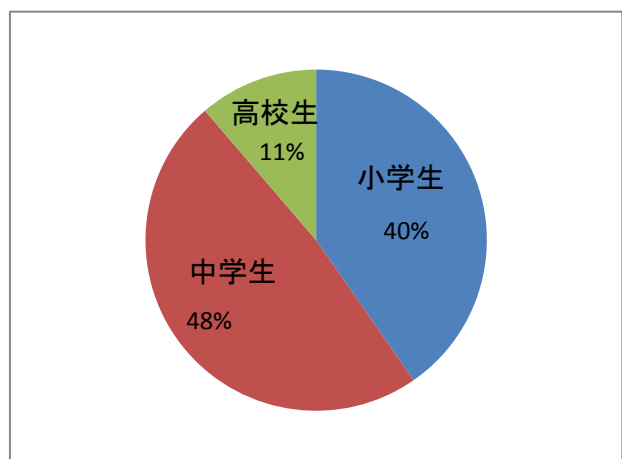
### ねっこぼっこのいえ学習以外の取り組み

ねっこぼっこのいえ拠点においても同様で2～3人程度の参加でしたが、最大で10人以上となる日がありました。また、たこ焼きパーティーやかき氷等勉強以外で何かを一緒に取り組むということが、ねっこぼっこのいえさんのご協力により実現したことが功を奏していると考えられます。

### 全拠点における子どもの学年別割合

拠点に来ている子どもたちの学年別割合は下図のようになります。最も多いのが約50%の中学生となっています。これは、中学生になると学習内容が格段に難しくなり、特に数学、英語につまずいてしまうことがあるためと考えられます。また、前年度小学6年生が多く、その子たちが中学生に上がったためと考えられます。

全拠点の学年別登録割合



拠点別学年別登録人数(実数)

拠点名	小学生	中学生	高校生	計
エルプラザ	8	11	6	25
こども學舎	6	6	0	12
へるすたでい	5	7	1	13
ねっこぼっこ	6	6	0	12
計	25	30	7	62

## エピソード

高橋自身運営を中心にしながら、中学生、高校生の担当をしています。そのなかに中学3年生で、歌手になることを目標にしている子がいます。とても明るい子で、いつも「おなかすいたー」とか「つかれたー」と言っていますが、やることはきっちりやり、分からないところははっきりと「分からない」と口に出してくれます。また、すでに芸能事務所に所属し、いくつかの場所でライブを行ったりしています。来年3月からは東京にある芸能人の多くを輩出している高校に進学する予定です。その話だけを聞くと、華やかな印象を持ちますが、その背景には、子どものやりたいことを実現するために母親がどれだけ必死に働いているか、家族がバラバラに暮らすことの寂しさ、不安を抱いているかを関わっている傍からそれを感じています。だからこそ、その子は学習面も含め何事も妥協することなく、正論を粛々と体現しています。その子の生き方は、家庭環境に左右されずに、自己実現にむけて挑戦することができるということを示しているものと思っています。



エルプラザ会場学習風景



へるすたでい会場学習風景



中3男子の1日料理長

## 若者の学習支援事業(リラーニング事業)

### 2014年度概要

NPO法人リカバリーさんから当年度も継続のご依頼をいただき、実施しました。月2回リカバリーさんが所有しているステップハウス(職員が巡回する一人暮らしをするアパート)の共有スペースで実施しています。当年度は3人の20代~30代の女性と関わり、基本的な読み・書き・そろばんを身に付けるグループ(1人)、高卒認定試験の合格を目指すグループ(2人)に分けて実施しました。前者のグループでは、新しいメンバーが担当したため関係性づくりから開始し、漢字の書き取りや算数の計算を中心に行いました。後者のグループでは、2月~4月の間は高橋一人で担当し、5月以降はもう一人のメンバーとともに行いました。1人の女性が高卒認定試験で4科目無事合格することができました。

## エピソード

前年度同様に高橋は、高卒認定試験合格を目指すグループで担当しました。関わる女性も前年同様です。1人の女性は定時制高校にも通っており、精神的不安定さと付き合いながら大学に向けて意欲的に学び、高卒認定試験も4科目合格するほど順調に進んでいました。ただ、順調に進んでいたことから大学進学、社会に出ることを実感し始め、不安から精神的不安定さがひどくなり、自立する意欲をなくしてしまいました。その結果、今年の3月にリカバリーさんのその女性への支援を終了し、私たちの支援も終了することになっています。学ボラ事業のエピソード同様、順調に進んでいる状況と不安定な状況というのは紙一重というのを実感しています。

## 2015年度の展開について

### 組織内資源の再検討・再構築

2015年1月で設立して3年が経ちます。今まで様々なツールや組織、プログラムをつくってきました。それらが本当に子どもたちに求めていることなのか、一方的になっていないか、本当に必要なのかじっくりと再検討し、再構築をして、基盤をしっかりと固めていきます。

### 新たな学びの機会を

今まで国語、数学、理科、社会、英語というような基礎科目を中心にサポートを行ってきました。これからはそれに加え、他団体の協力を得ながら、体験学習等他分野の学びの機会をつくっていきたいと考えています。子どもが選択するかどうかは別として、まずは様々な学びの機会が提供されることが重要であると思っています。そして、基礎科目の学習と体験学習の相互作用により意欲や自己肯定感の向上につながると考えています。

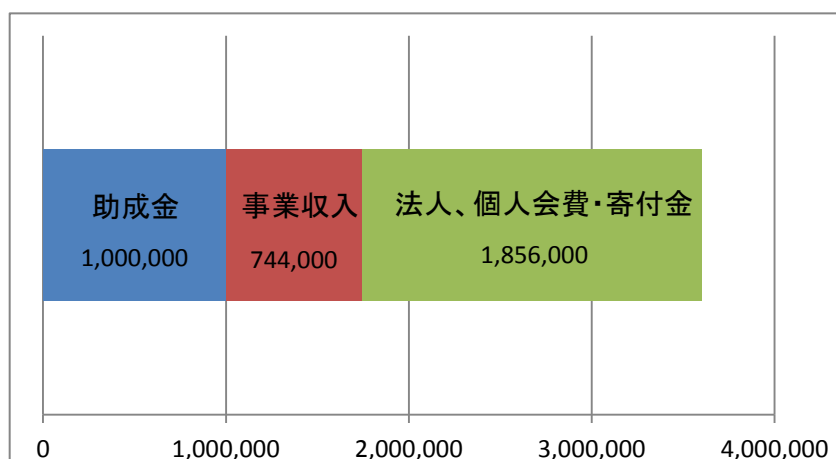
### 子どもとの新たな関わり方法の形成

私事ではございますが、高橋は今まで一般企業に勤めながらこの活動を行ってきましたが、2014年12月末で退職し、今年度からKacotamの常勤スタッフとなります。今まで活動していくなかで感じたのは、子どもたちが抱える問題は仕事が終わった後、休日だけでは到底解決することはできないということです。現状としては、学ボラ事業、リラーニング事業は施設からの依頼があって始めることができ、スタサポ事業は、保護者の同意があり、子どもが拠点に来ることによって初めて関わるすることができます。しかし、「保護者が忙しくて連れて行くことができない子」、「保護者は子どもの教育に関心がない、でも何かを学びたい、落ち着いたところで勉強したいと思っている子」、「経済的困難さから普段から様々なことを我慢し、あきらめさせられて意欲をなくしてしまっている子」…というような子どもとは現状のやり方では関わることはできません。また、関わっている子どものなかには、「家に帰りたくないから、できるだけカコタムにいたい」という子もいます。それを改善するためには、子どもと関わるための時間を確保すること、待っているのではなくこちらからアプローチすること、関わり方の選択肢を増やすことが必要であると考えています。それらを実現できるようにこれから試行錯誤しながら、努めて参ります。

### 2015年度の目標金額

今年度から目標金額を公表させていただきました。今まで団体内で目標金額を設定していました。実際に運営をし、子どもたちと関わっているのは私たちKacotamメンバーではありますが、それは役割の違いと考えています。継続する上で重要な資金を支える、活動で支える、持っている想いの方向は同じで、皆でKacotamが作られていると考えています。避けられがちな資金面の目標を記載させていただきました。

目標金額:3,600,000円



【用途】	
人件費	2,160,000
交通費	774,000
(メンバーへの支払い)	
賃借料	220,000
(事務所スペース、ロッカー代)	
教材費	100,000
消耗品費	240,000
(A4用紙、インク、お茶代他)	
その他	106,000
計	3,600,000

助成金は単年度のものも多く、取得できるかどうか不安定なこと、常勤職員の人件費を計上することができないことから、出来る限り、割合を小さくしていきたいと考えています。また、将来的にはスタサポ事業の参加料200～500円をさらに低くしていきたいと考えています。



## 団体概要

### 名前の由来

子どもたちには「自ら考えて行動すること」、「自ら考えて行動することを楽しむこと」ができるように、なってもらいたいと思い、

考える … 「か」

行動する … 「こ」

楽しむ … 「たむ」

を合わせて、「かこたむ」としました。

### 団体名

特定非営利活動法人Kacotam

### 設立

2014年3月4日(2012年1月任意団体設立)

### 役員

理事長 高橋 勇造

理事 隈元 晴子

理事 松尾 祐子

監事 池邨 清美

### メンバー

学生 50 人

社会人 28 人

計 78 人

※2015年1月20日現在



## 協力団体・会員のみなさま

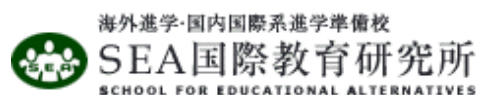
### 【学習支援運営支援】



保育士を育てる  
厚生労働大臣指定 保育士養成施設  
**こども學舎**



**manavee**



### 【会員・寄付】

会員	11人	
寄付者	5人	計 192,500円

### 【お菓子の寄付】

寄付者	1人
-----	----



特定非営利活動法人Kacotam  
札幌市西区宮の沢1条5丁目6番36号  
TEL : 090-9750-6064  
Mail : info@kacotam.com  
URL : <http://www.kacotam.com/>  
Facebook : <https://www.facebook.com/kacotamsince2012>  
Blog : <http://kacotam.blog.fc2.com/>